

にぎわい通信

編集者より

今回の「にぎわい通信」174号では、敦賀港で開催された「みなとふれあい教室」と「消波ブロックアート」について報告いたします。



みなとふれあい教室開催！

平成24年10月15日、敦賀港のフェリーターミナル及び親水護岸フェリオスにおいて、敦賀西小学校の5年生49名が、港の役割や「海・港」への親しみ・興味・関心を高めてもらうことを目的に「みなとふれあい教室」と題し、フェリー見学、講話及び稚魚放流を体験しました。

当日は、今年6月に就航したばかりのフェリー船内において、客室や普段は入れない操舵室等を見学し、その豪華さや大きさに感動した様子でした。

次にターミナル内にて、寺田敦賀支店長、濱上敦賀市漁業協同組合長、松本所長の講話が行われ、松本所長からは「港が生活にとって重要な役割を果たしていることやいつまでも綺麗な海を大切にしてほしい」との講話がありました。

その後、敦賀湾で育った鯛の稚魚500匹を小学生が網とバケツを使用し、元気が良くてなかなか捕らえられない稚魚に苦戦しながらも、楽しそうに稚魚の放流を行いました。



フェリー操舵室にて機器等の説明



鯛の稚魚を捕まえている様子

消波ブロックアートを開催！

平成24年10月16日、敦賀港川崎松栄地区の消波ブロックヤードにおいて、敦賀西小学校の4年生50名と特別支援学級の9名が、港と防波堤の役割と関わりなどを学習してもらうことを目的に、みなとについての講話や消波ブロックアートを行いました。

当日は、秋晴れの中、まず、杉浦保全課長より敦賀港の役割についての講話を行った後、事前に画用紙に描いた絵をもとに下絵された消波ブロックにペンキで色を入れました。

小学生達からは、室内で画用紙に描くのとは違って、屋外で大きな消波ブロックの側面に描くことができ楽しかったという意見やこの消波ブロックはこの後どうなるのかという質問が出ました。

なお、この消波ブロックは11月初旬から始まる鞠山防波堤への消波ブロックの据付作業までの間、ブロックヤードにて飾られる予定です。



敦賀港の役割について説明



ペンキを受け取る様子



消波ブロックアートの様子



消波ブロックアートの全体風景